

表 1. WHO によって 1999 年に発表されたフェーズ分けと、今回の世界インフルエンザ事前対策計画との比較対照表

WHO により 1999 年に発表されたフェーズ	新しいパンデミックフェーズ	国レベルにおける追加小項目
非流行期 フェーズ 0	パンデミック間期 フェーズ 1. ヒトにおいては、新たな亜型のインフルエンザウイルスは同定されていない。動物において、ヒトに感染したことがある亜型のインフルエンザウイルスが存在しているかもしれない。もしも動物にみられたとしても、ヒトへの感染リスクは小さいと考えられる。 ^a	
	フェーズ 2. ヒトにおいては、新たな亜型のインフルエンザウイルスは同定されていない。しかしながら、動物において循環している亜型が、ヒトの発症に対してかなりのリスクを提起する。 ^a	当該国が影響を受けているか、発生国と旅行や貿易の上で非常に強い結びつきがある。 影響を受けない。
フェーズ 0. 準備レベル 1: ヒト症例発生	パンデミックアラート期 フェーズ 3. 新しい亜型によるヒト感染（複数も可）がみられるが、ヒト-ヒト感染による拡大はみられない、あるいは非常にまれではあるが、密接な接触者への感染に留まる。	当該国が影響を受けているか、発生国と旅行や貿易の上で非常に強い結びつきがある。 影響を受けない。
フェーズ 0. 準備レベル 2: 限られたヒト-ヒト感染	フェーズ 4. 限られたヒト-ヒト感染が起こり小さなクラスター（単・複）がみられるが、感染拡大は非常に限局されており、ウイルスがヒトでの感染伝播にあまり良く適応していない事が示唆される。 ^b	当該国が影響を受けているか、発生国と旅行や貿易の上で非常に強い結びつきがある。 影響を受けない。
フェーズ 0. 準備レベル 3: 一般への拡大	フェーズ 5. より大きなクラスター（単・複）がみられるが、ヒト-ヒト感染は依然限局しており、ウイルスはヒトでの感染により適合しつつあるが、まだ完全なヒト-ヒト感染伝播能の確立に至っていないと思われる（著しいパンデミックリスク）。 ^b	当該国が影響を受けているか、発生国と旅行や貿易の上で非常に強い結びつきがある。 影響を受けない。
流行期 フェーズ 1. 複数国	パンデミック期 フェーズ 6. パンデミック期 : 一般ヒト社会の中で、感染伝播が増加、持続している。 ^b	まだ影響を受けていない。
フェーズ 2. 複数地域		当該国が影響を受けているか、発生国と旅行や貿易の上で非常に強い結びつきがある。
フェーズ 3. 初期の流行国では小康状態だが、他の国々では流行中		小康状態
フェーズ 4. 次の流行波		次の流行波（セカンドウエーブ）
パンデミック後期 フェーズ 5. フェーズ 0 への回帰	後パンデミック期 パンデミック間期への回帰	パンデミック間期への回帰

^a フェーズ 1 と 2 の違いは、動物のあいだに循環しているウイルス株による、ヒトの感染や疾病のリスクに基づく。この区別は、様々な要因と現在の科学的知識による、その相対的重要性に基づく。これら要因には、動物やヒトにおける病原性、家畜や家禽あるいは、野生動物での発生、ウイルスが動物間で蔓延（enzootic）しているのか、動物間流行性（epizootic）であるか、地理的に限局しているか、広域に広がっているか、ウイルスゲノムからの他の情報、またその他の科学的パラメータなどが含まれる。

^b フェーズ 3、4、5 の違いは、パンデミック発生のリスクの評価に基づく。様々な要因と、現在の科学的知識からのその相対的重要性が検討される。これら要因には、感染伝播率、地理的分布と拡散状況、疾病の重篤性、ヒトのウイルス株からの遺伝子の存在（もしも動物由来株であれば）、ウイルスゲノムからの他の情報、またその他の科学的パラメータなどが含まれる。